FDニュース創刊にあたって

FD委員会委員長
青山　義孝

「日本の大学の教育力は非常に低い。しかも卒業は非常に容易である。…これでは、年齢を重ねただけの能力のない学生を社会に放り出しているにすぎないであろう。」

これは日本私立大学連盟が下した日本の大学の自己評価です。大学は研究の場であると同時に教育の場であり、しかも、高等教育を施す唯一の機関であります。その大学が自らをこう評価しなければならないのが日本の大学教育の現状です。これでは社会に対する大学の責任を果たしているとは言えないでしょうし、高等教育のグローバル化が話題に上り、日本の大学の教育力が懸念され始めている現在、教育の技術のいかんによっては大学の存続そのものが危ぶまれると言っても過言ではないでしょう。

大学がユニバーサル・アクセスの時代を迎えるとともに、エリート教育の場としての大学の姿は一変し、多様な入学動機を持ち、学力が総体的に不足し、勉強嫌いの学生が多くなってきています。甲南大学も例外ではありません。学生の教室以外での学習時間が一日平均15～16分、アルバイトの時間が3時間強という甲南大学の現状を鑑みるとき、甲南大学が高等教育機関としての責務を果たすためには、教育の質の向上に向けた抜本的な教育改革、FD活動の推進が必要なのです。

No. 1
2008年2月1日
発行
甲南大学FD委員会

INDEX

1 FD研修会のご案内
2 これまでのFD委員会の活動について
3 10月25日 FDフォーラムを開催しました！
4 経済学部での取り組み

FD NEWS
［甲南FDニュース］

FDとは

（FD：ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などが挙げられます。大学設置基準等では、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めていますが、FDの定義・内容は論者によって様々であり、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もあります。

（中央教育審議会大学分科会　制度・教育部会
学士課程教育の在り方に関する小委員会「学士課程教育の再構築に向けて」の用語解説より）

2007年度 FD委員会 委員

青山　義孝	委員長・副学長
小山　直樹	学長補佐
服部　雄一	大学企画室長（学長補佐）
永廣　顕	教務部長
羽下　大信	文学部
玉置　克之	理工学部
市野　泰和	経済学部
徳永　光	法学部
大塚　晴之	経営学部
中村　耕二	国際言語文化センター
山崎　俊輔	スポーツ・健康科学教育研究センター
西川　耕平	EBA高等教育研究所
石井　昇	法科大学院
上埜　進	会計大学院

（2007年12月現在）

FD研修会のご案内

NEWS 1

FD委員会の主催で、関西国際大学の濱名篤先生をお招きし、FD研修会を開催します。

テーマ　**「初年次教育について」**

講　師　関西国際大学学長・教育学部教授
濱名　篤 氏

■日時　2008年2月20日（水）（午後2時～午後4時）

■会場　第1会議室（3号館7階）

■対象　FD委員、部局長

※参加を希望される教職員はご自由にご参加ください（申込不要）

これまでのFD委員会の活動について

NEWS 2

2004年9月、部局長会議にて「甲南大学FD委員会内規」が承認され、甲南大学FD委員会が発足いたしました。2004年度は授業評価アンケートの実施方法や集計結果等の公開方法について精力的に議論しました。これにより、現在実施されている授業評価アンケートの実施方法および結果の公開手続きの原型が完成しました。また、2005年3月には、理工学部と協力し、外部から講師を招いて甲南大学FD講演会を開催しました。2005年度は、GPA制度の導入について議論を行い全学的な情報の共有を図りました。2006年度においても、引続きGPA制度の導入に関する技術的な内容について集中的に議論し、GPA制度の導入案を策定する作業を進めました。2007年度は、授業評価アンケートを原則として全科目で実施することに決めました。10月には，外部から講師を招いて甲南大学FDフォーラムを開催し、11月にはFDニュースの発行を決定するなど、全学的なFD活動の実施と活性化に取り組んでいます。

FD NEWS

10月25日 FDフォーラムを開催しました!

NEWS 3

高校教育の実態に迫る

FD委員会では、10月25日(木)16：30から122講義室において2007年度第1回FDフォーラムを開催しました。

今回のテーマは「高校生の学力と教科指導」とし、甲南高等学校・中学校教育研究部長 中原敦教諭(英語)、兵庫県立夢野台高等学校進路指導部長 宮城達夫教諭(国語)、神戸市立六甲アイランド高等学校進路・学系指導部長 長谷川琢也教諭(数学)の3名の先生方をお招きし、各教科における高校での指導の現状についてご講演いただきました。

英語担当の中原先生は、英語で日記を書く、討論をするなど自己表現力を高める点に教育の重きをおいており、国語担当の宮城先生からは、小論文や大学への志望理由書の指導を通して、昨今の高校生の語彙力や読解力が不足している現状について述べられました。数学担当の長谷川先生は「数学離れ」について述べられ、数学への苦手意識を払拭し、学ぶことの楽しみを教えることの重要性についてお話いただきました。

講演後の質疑応答も活発に行われ、終了時間が延長するほどでした。フォーラム後に開催された懇談会でも、FD委員と講師の方々の意見交換も行われるなど、改めて教育について考える機会となりました。

当日の様子

FDフォーラムに参加して

法学部
准教授
徳永　光

今回のフォーラムでは特に、今の高校生にとって大学へ進学することの意味が必ずしも明確でないとのお話を興味深く伺いました。それが大学での受講態度へも影響しているように思われます。逆に、教える側には、入試や資格試験など直接的な動議付けだけでなく、知ること自体の楽しさを伝える工夫が求められているのだと感じました。

経営学部
教授
大塚　晴之

個々の高校の特性に応じた授業の工夫をお聞かせいただき、それに続く大学教育でも、学生の目線で講義を工夫する必要性を感じました。一方、受験という制約に対応して高校教育が工夫を強いられていることも知り、高大連携を、「自由な学びの喜びを感得させるための取り組み」と位置づけることにも意義があると感じました。

経済学部での取り組み

NEWS 4

演習クラスで理解度アップ!

経済学部
准教授
市野　泰和

学生にもっと勉強してほしい。講義に出てただノートをとるだけでなく、講義後にノートを見返して復習したり、自分で図をかいたり、計算したり、問題を解いたりしてほしい。「学生の勉強量を増やすこと」は、FD活動の目標のひとつだと私は考えます。

もちろん、全ての授業でこの目標を達成、というのはなかなか大変な話です。そこで、せめて1年生配当の必修科目ではもっと勉強させたいという思いから、2006年度より「入門マクロ経済学」と「入門ミクロ経済学」の単位数をそれぞれ2単位から4単位に増やしました。従来の週1回の講義に加えて、講義を補完する形で、週1回の演習を行うようにしたのです。専任教員の担当する講義クラスを5つにわけて20名程度の演習クラスをつくり、それぞれの演習クラスで、講義の復習や問題演習、小テストなどをしています。

演習クラスの先生は博士課程の大学院生が中心です。歳が近く、若い先生は学生にとって親しみやすいようで、講義では訊けなかったような質問も演習クラスでは気軽に尋ねられるようです。また、演習クラスは、小規模で親密な空間を提供し、そこでの共同学習を通じて「学友」をつくる場としてもうまく機能しています。さらに、演習クラスでは学生の理解度に応じて授業を進められますから、出席はしているが授業はさっぱりわからない、という学生はほとんどいなくなりました。何よりも、単位数の倍増によって学生の勉強量は増えましたし、その結果として、理解度ははっきりと向上しているという声が何人かの先生から寄せられています。

もちろん、いいことばかりではありません。演習クラスで仲良しグループができたため、講義クラスやほかの授業での私語が増えている、というのは悩ましい問題です。また、どうせ演習クラスで復習があるから、と講義クラスを真剣に聞かない学生が増えていることも問題です。

今後は、講義クラスと演習クラスの連携をより密にして進度を調整し、講義クラスも演習クラスもまじめに聞かせるような仕組みをつくることが必要だと考えています。

FD図書のご案内

初年次教育
歴史・理論・実践と世界の動向
濱名　篤
川嶋　太津夫　編著
丸善

教育デザイン入門
大学教育とFDプログラム
実践的ソフトウェア教育コンソーシアム　編
オーム社

この他にもFDに関する図書を大学企画室にて貸出しています。
どうぞお気軽にご利用ください。

FDニュースへのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

〔お問合せ先〕
大学企画室
TEL078-435-2663(内線2810)
FAX078-435-2306
kikaku@adm.konan-u.ac.jp